

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立 今福小学校	宮本 博信
学校所在地		
〒 641 - 6101 和歌山市今福3丁目7-46 tel 073 (424) 6101 fax 073 (424) 6102 e-mail imahuku@wakayama-wky.ed.jp		
担当者名		役職名・担当教科
北山 友梨 / 貴志 優太		教諭
<p>〔学校の概要〕</p> <p>児童数211人。学級数は11。教職員数24名。和歌山市のほぼ中央部に位置し、周りは住宅街である。児童数は減少傾向になりつつあるが、地域団体の交流も多く、学校教育に協力的である。</p> <p>「健康で豊かな情操と創造的実践力のある子どもの育成」を教育目標とし、和歌山市の小学校体育学習研究指定を受けて、取り組んでいる。児童の実態としては、全体的に明るく素直で、行事や遊び、日々の清掃活動などで、学年を越えて交流している。しかし、人前に立って話をしたり、困難なことに出会ったりするとやや引っ込みがちな面もある。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 44名	名 職員 3名	教室、パソコン室、高野山奥の院、高野山会館
実践研究テーマ		
友だちとかかわり合い、ともに高め合う子どもたちの姿を求めて		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山県の世界遺産 高野山の魅力を伝えよう！	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習 郷土を愛する心情 主体的創造的な学習態度 表現力</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌山県の歴史、文化、自然を調べ伝え合う活動を通して、和歌山県の素晴らしさを感じようとする。 (感じる力) インターネットや資料を活用して、情報を集めたり、必要な情報を取捨選択したりして、目的に応じた資料の収集整理をしようとする。 (情報活用能力) 見学して体験したことや調べたことをもとに、高野山の魅力を伝えようとする。 (表現力) 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 18時間 （「和歌山県の世界遺産 高野山の魅力を伝えよう！」 13時間）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター 世界遺産入門 次世代育成事業（現地学習等）</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	○高野山の歴史について調べよう。 ○空海の生い立ちについて知ろう。	○歴史学習で習ったこととつなげながら、高野山に対する新たな気づきや驚きを見つける。 ○空海のしたことだけでなく、どのような願いや思いをもって生きたかにも注目する。	(感じる力) ワークシート
2	○調べたことをもとに、世界遺産にかかわる人の思いに触れ、文化や自然を体感する。	○語り部の方のお話を聞きながら、高野山(奥の院)を歩く。 ○高野山会館にて、世界遺産について学習する。	(感じる力) 観察
3	○活動計画を立てよう。 ○全校にどのように発表するか構想を立てて、そのために必要な資料を考える。 ○発表の準備をしよう。	○体験を通しての感想を出し合う。 ○高野山の魅力として何をどのような方法で伝えるか考える。 ○必要な資料を選び、調べる。	(情報活用能力) ワークシート ふり返しカード
4	○全校に向けて、発表しよう。	○自分たちの思いや願いが伝わるように表現する。	(創造する力) 観察 自己評価 (コミュニケーション力) 観察 ふり返しカード
5			
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>【成果】 今回の学習の実践を通して、子どもたちに主体的に問題を解決しようとする態度が身についてきた。実際にその地の空気を吸い、自分の足で歩き、語り部の方たちと触れ合うことで、高野山の魅力を伝えたいという気持ちに自然となることができた。自分の感じたことを伝え合い、何をどのように発表するかグループで話し合う活動を通して、子どもたち同士かかわり合う力も育ってきた。子どもたちが自分たちの生まれ育つ和歌山の良さに気づき、愛着をもつことができた。子どもたちは、劇やクイズ、見学を再現するといった方法で発表した。自分たちが選んだ表現方法だったので、学習の最後まで興味をもって取り組むことができた。</p> <p>【課題】 指導者として、学習の際には、当日の見学(体験)がより生きるような事前・事後学習、単元計画を考えていきたい。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>○世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習を通して、新しい気づきや発見がある楽しさを実感できる。</p> <p>○実際に体験することで、そこから生まれた課題を設定し、課題解決、コミュニケーション能力の方法を身につけることができる。また、課題解決に向かう過程も子どもたちにとっては大切な経験であり、学びである。</p> <p>○『百聞は一見にしかず』という言葉通り、現地で体験することで、子どもたちの五感をしっかりと使って学習することができる。</p> <p>○学習したことをまとめ、聞き手を意識して発信することができる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>体験を通して学ぶことは、「ほんもの」にふれる経験である。子どもたちにとって、本で読んだだけやインターネットで見ただけというより、自分の生活とつなげて考えて学習することは、とても大切なことである。次世代に伝えて残していきたい世界的な「宝」がこの和歌山にあることはとても誇らしいことだし、一人でも多くの子どもたちに体験してほしいと思うので、ぜひ続けてもらいたいです。</p>			

様式 2

平成 27 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

児童感想より

- ・語り部の方のお話が面白かったです。「姿見の井戸」のことを初めて知りました。実際にのぞくときは、ドキドキしました。また行きたいと思いました。まだ、行ったことがない人にはぜひ行ってもらいたいです。
- ・今日は集会で高野山の魅力を発表しました。僕は、空海の生い立ちを劇にして発表しました。三鈷しょうを投げる場面は、絶対やりたかったです。配役を決めたり、セリフを考えたり、衣装を用意したりするのが楽しかったです。
- ・和歌山に世界遺産があるのは知ってたけど、世界遺産がどこでどのように選ばれているというのは、今回勉強して始めて知りました。世界レベルで守っていく宝が私たちの住んでいる和歌山県にあるのは、すごく自慢だと改めて思いました。外国からもお客さんが来てくれるのはうれしいです。